コミュニティの密な連携が災害時の対応強化につながる

清水建設
技術研究所
主任研究員
村田 明子

東日本大震災以降、災害時における”コミュニティの力“の重要性が見直されています。当社技術研究所では、被災後にマンションへの聞き取り調査を実施。その結果、居住者同士の連携の有無が、災害直後の対応やその後の避難生活に大きく影響することがわかりました。

平常時から結束力が強いマンションは震災時の対応も迅速だった

技術研究所では、2008年度～2010年度の国土交通省助成事業「集合住宅の安全安心『21世紀型コミュニティ』構築支援システムの技術開発」に参画、私はその主担当者として活動しました。この事業では、マンション内のコミュニティの現状や課題について調査を実施。その内容をもとに、インターネットを用いて居住者同士のネットワークづくりを支援するツール「コミュニティサポートシステム」を開発しました。

この事業の終了と時を同じくして、東日本大震災が発生。技術研究所では、共同研究相手である神戸大学、大阪大学とともに、仙台や首都圏のマンション（14件）に対して、震災時の対応について聞き取り調査を実施しました。その結果、「日頃から居住者のつながりが強いマンションでは、災害時も迅速に対応・行動し、互いに支援し合うことで、被害の影響を最小限に抑えられた」ことが明らかになりました。

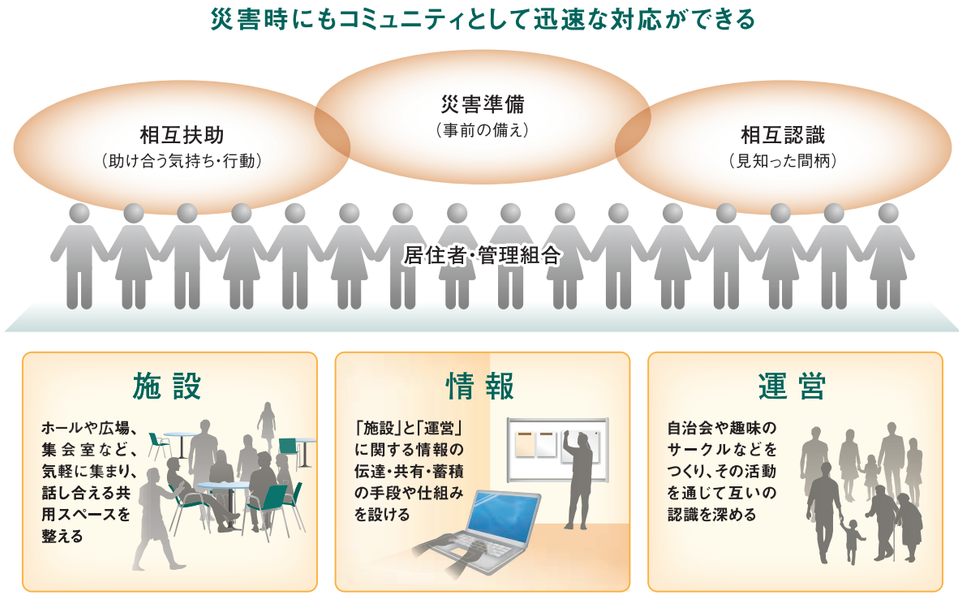
コミュニティづくりのポイントは「施設」「運営」「情報」の結び付け

さらに、調査結果を詳細に分析した結果、被災後の生活維持継続には「施設」「運営」「情報」の3つの要素が重要であることがわかりました。図1の通り、この3要素をコミュニティづくりの一環として、平常時から結び付けることで、災害時の対応・行動が大きく変わってきます。

これからのマンションでは、災害時に居住者同士が相互に支援、連携できるコミュニティの存在がますます重要になってきます。そこで、「施設」「運営」「情報」を中心に、コミュニティ構築の施策をまとめた「コミュニティ・スタート&パワーアップガイド」を神戸大学、大阪大学と共同で作成しました。今後は本ガイドを活用しながら、災害時にも強いコミュニティの構築を視野に入れた施設の提案を行っていきます。

「コミュニティ・スタート&パワーアップガイド（冊子版）」の一部抜粋

【図1】コミュニティづくりのイメージ



【 関連事例紹介 】

千鳥掛け住棟ユニットで居住者のコミュニケーションを誘発

ガーデニエール砧WEST

当社が設計・施工し、事業主になっている賃貸マンション「ガーデニエール砧WEST」では、住棟ユニットを千鳥掛け形式に配置。光と風が通るハーフコモン（廊下につながる共用庭）が、言葉を交わしやすい雰囲気をつくり、居住者の交流を促進する役割を担っています。また本建物は、生活継続をコンセプトに、施設全体の省エネ対策や停電時に共用部に電力供給するシステムを盛り込むなど、災害に強い集合住宅を実現しています。